

令和7年度自衛隊記念日レセプション大使挨拶

2025年8月26日

御出席の皆様、本日皆様を大使公邸にお迎えし、自衛隊記念日レセプションを開催できることを誠に喜ばしく思います。

自衛隊記念日レセプションは、自衛隊創立71周年を記念するとともに日本とブラジルや諸外国間の防衛・安全保障分野の関係強化を願って行うものです。ここに（VIP最高位の人名を呼称）をはじめとする多数の方々を招待できたことを心から感謝しつつ、日本料理と日本酒で皆様を歓迎いたします。また、本日は多くの日系企業が会場前方にて展示をおこなっております。ぜひ、各展示企業をご覧ください。

さて、本年は第2次世界大戦の終結から80周年を迎えますが、現在の国際情勢はますます混迷を深めています。そのような中、わが国の安全及び地域の平和と安定、さらには国際社会全体の平和と安定及び繁栄の確保に積極的に寄与していくために、日本は様々な取り組みを行っています。防衛分野の例を挙げれば、昨年12月には「防衛装備品移転三原則」の運用指針を改定するとともに、今年、新たに統合作戦司令部を新設しました。力による一方的な現状変更を許容しない安全保障環境を創出していくのは一国でなしえることではなく、同盟国・同志国などとの連携が必須です。

ブラジルとの関係では、昨年は5月の岸田総理のブラジル訪問に引き続き、11月にG20を機会として石破総理もブラジルを訪問するとともに、3月にはルーラ大統領が国賓として訪日しました。その中で両首脳は「平和・多国間主義強化に関するパートナーシップ」の立ち上げや「外務・防衛対話の設置を決定、防衛人材交流や部隊間交流、防衛装備・技術協力、防衛当局間の対話を含む防衛協力及び交流の促進を確認しました。また、5月にはアギアル・フレイレ統合参謀総長が日本を訪問し、吉田統合幕僚長、斎藤海上幕僚長と会談しました。

また、先週は小林防衛政務官がブラジリアを訪問し、第1回外務・防衛当局間対話が実現しました。そして現在、海上自衛隊の練習艦隊がサントス港に入港しております。本日のレセプションには特に練習艦隊の渡邊司令官が出席されています。これまで、2020年12月にブラジル国防大臣と我が国防衛大臣との間で署名された「防衛協力覚書」に基づき、軍レベルでの様々な協力が進展していますが、最近の訪問や交流により、両国の協力関係がさらに加速するものと期待しています。

こうした安保・防衛分野での関係強化にあたっての、関係者の方々の温かいご支援、ご協力に、改めて感謝申し上げます。本日のレセプションが日本とブラジルの絆、特に安全保障・防衛分野の密接な関係を深めることを祈念して、私の挨拶といたします。